

皆さんこんにちは。  
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

仕事をするうえで、人の「行動」から、その人の「人間観」を洞察する習慣が、20代にできました。これは新卒で(株)ヤナセで営業マンをしていた時に、誰から教わることもなく、もがき苦しんでいるうちに、自然に自分の習慣となりました。要は、口では買えないよと言いながらも、実際キャデラックを購入する人を洞察により見極める習慣です。

「人間観」は、人間をどうゆう観点で捉え理解するか？と定義できると思います。この観点は、みなさまご存知のように様々あります。例えば、人間は創造主に造られた万物の霊長なのか、他の動物と同じ進化の延長にあるのか、個人の集合が社会を形成するのか、社会が個人を形成するのか等。そして中国の故事成語に度々登場し研究されるのは、性善説・性悪説です。

性善説：人間は生まれながらにして善である。しかしそれを努力して伸ばさなければならぬ（孟子）。

性悪説：人間の本性は悪である。しかし後天的努力により善を知り正すことができる（荀子）。

両説は、人間の持つ可能性への信頼という捉え方は一致していますが、思考の出発点である観点は正反対です。当然正反対の「人間観」を持つ人間の行動原理は大きく異なり、営業マン時代には人間のココを洞察し、営業に活かす習慣ができました。

第13回で話題にしたいのは孟嘗君についてです。孟嘗君の「人間観」を上記のような分類で言うと具体的に何か？性善説に近いのですが、ちょっと具体的ではありません。読んで頂いているみなさんそれぞれ、考えて頂ければと思います。

孟嘗君は始皇帝の時代より更に30年ぐらい前の人で、齊の国で宰相という役職にありました。宰相は諸葛亮孔明（丞相）のように皇帝側近の参謀のような役職で、現代で言うと内閣総理大臣のような役職です。当時は情報が貴重だった為、支配階層の人物が他国の情報だとかを持っている有識者を食客として自分の家に自費で寝泊まりさせ養う文化がありました。うちは食客が1,000人いる、なんて言うのがステータスになったわけです。

# Encourage & Company

通常、自費で養うのですから、少なくとも支配階層の人物にとって役に立つ食客（やはり主に有識者）でないと意味がないのですが、孟嘗君は他の人とちょっと「人間観」が違っていたのでしょうか、養う食客にも特徴がありました。

孟嘗君は、人間を分け隔てることなく、一芸あれば食客として迎え入れました。後に功労者となる食客の馮驩（ふうかん）は何の芸もなく養われていましたので、唯一の制限である一芸も相当緩く、ないに等しかったと思います。

食客の中には、盗みが得意な者、モノマネが得意な者までおり、大多数の食客（有識者）は主人の孟嘗君は頭がおかしくなったのかと懐疑的でした。

ある時、秦の国に表敬訪問をした際に不運にも秦から出してもらえず、秦の昭襄王に命を狙われることになりました。そこで昭襄王の寵姫に取入って命乞いをしました。すると孟嘗君が昭襄王に献上した狐白裘（狐の腋の白い毛だけを集めて作った毛皮のことで、一着に狐が一万匹は必要と言われるほど希少）をくれたら助命を頼んでもらうとなりました。そこで、上記の盗みが得意な食客の出番で、手際よく狐白裘を取り返して来ました。助命の甲斐あって秦から出ることが許されましたが、いつ気が変わって追撃してくるかわからないので、急いで斉を目指しました。ところが国境の函谷関まで夜中に辿りつきましたが、門は夜間閉じられているため足止めを覚悟しました。しかしそこで、上記のモノマネが得意な食客が鶏の鳴きまねをすると、次々に鶏がつられて朝のコケッコを鳴きはじめました。本来の朝より何時間も早く孟嘗君は函谷関を抜けることができ、昭襄王の追っ手はどうとう孟嘗君を捉えることができず、孟嘗君は無事斉の国に帰ることができました。

懐疑的だった大多数の食客は、この時主人の孟嘗君は先見があったと、少しでも疑ったことを恥じたのでした。故事成語の「鶏鳴狗盗」（けいめいくとう）は、この時の孟嘗君の話しが由来です。

孟嘗君は、人間をどうゆう観点で捉え理解していたのでしょうか。ここではご紹介しきれないのですが、食客に出す食事は全員同じ質のものを出していたそうです。しかしある時、机についたてを置いたのは自分と他の食客に食事に差をつけているのだらうと疑った者がいましたが、やはり全員同じものであり、その食客は疑ったことを恥じて自害した逸話があります。ここからも洞察できるように、孟嘗君は人間を分け隔てることなく、良い悪いも併せ持って、それはお互い様であって、自分を受容れるように他人を受容れたのではないかと思います。

# Encourage & Company

この「人間観」、私は10分ぐらいスタンディングオベーションなのです。

堀 洋三

-バックナンバー中国故事成語をビジネスに応用する-

第1回目は「牛耳る」

第2回目は「鳴かず飛ばず」

第3回目は「司馬懿仲達」

第4回目は「我れ鳥獣にあらず」

第5回目は「国士無双」「狡兔死して走狗煮らる」

第6回目は「鼓腹撃壤」

第7回目は「外戚」

第8回目は「論語①」

第9回目は「東郭先生と狼」

第10回目は「孫子の兵法」

第11回目は「漢中（場所）」

第12回目は「不如意」